

謹んで新春のご祝詞を申し上げます
旧年中は大変お世話になりました
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

三井記念美術館は、2005年に中野区の三井文庫別館を現在の日本橋に移転し、本格的な美術館として開館いたしました。今年10月には開館20周年の記念の年を迎えます。日本橋は三井家創業の地であり、三井グループ各社に縁の深いいわば基地であります。そして、開館以来コンセプトにしております、伝統的な日本・東洋の「造形の美」と「用の美」を柱に、今年も活発な美術館活動を展開し、高い芸術性と文化を発信してまいります。

昨年4月には、「茶の湯の美学―利休・織部・遠州の茶道具―」展、7月には「美術の遊びとところⅧ 五感であじわう日本の美術」展、9月には特別展「文明の十字路口―バーミヤン大仏の太陽神と弥勒信仰―ガンダーラから日本へ―」を開催いたしました。

本年は、現在開催中の「唐^{から}ごのみ―国宝 雪松図と中国の書画―」展につづき、2月には特別展「魂を込めた 円空仏―飛騨・千光寺を中心にして―」を開催いたします。そして新年度の4月からは「国宝の名刀と甲冑・武者絵 特集展示 三井家の五月人形」を、7月には「美術の遊びとところⅨ 花と鳥」を、そして9月には開館20周年特別展「円山応挙―革新者から巨匠へ―」を開催いたします。さらに12月には「国宝 熊野御幸記と藤原定家の書」を予定しております。

三井記念美術館は、江戸時代以降三井家が収集した質の高い美術品を多数伝えており、開館以来これらの作品を広く公開するとともに、今後も様々なテーマの特別展を開催し、開かれた美術館を目指してまいります。

令和7年元旦

三井記念美術館
館長 清水眞澄